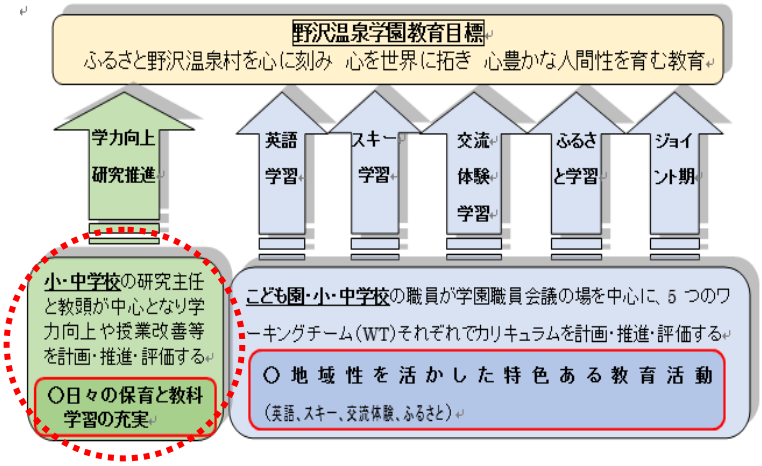
野沢温泉村幼保小中一貫教育・高校連携教育　　令和４年３月１６日（通算１８１号）

# 山毛欅（ぶな）の子　野沢温泉学園だより第12号

～子どもたちが、ブナ（村木）の若葉のごとく、力強くたくましく伸びてほしいとの願いを込め～

## 子どもも職員も「ともに学び合う野沢温泉学園」に




学園教育目標「ふるさと野沢温泉村を心に刻み　心を世界に拓き　心豊かな人間性を育む教育」の具現を目指して、本年度も野沢温泉学園の各種事業が進められました。幼保小中一貫教育・高校連携教育を掲げる本学園は、本来であれば、学校種を超えて子どもたちや教職員が交流する機会を充実させたいところです。しかし、新型コロナウイルスへの感染リスクを避けるため、昨年度に引き続き、制約のある中での学園運営を余儀なくされました。

そのような中で、本年度特に力を入れたのは、上の学園イメージ図のうち左端に示した「日々の保育と教科学習の充実」という点です。コロナ禍の影響で学園内での交流機会は制限されますが、日常の保育と授業はそれぞれで行われていますので、この機に充実を図りたいと考えました。

### １　「模擬授業」を通した「学習する子どもの視点に立った保育・授業改善」の推進

日々の保育と教科学習の充実を図るために、年　２　回の学園授業研究会（6/22、11/18）の共同参観を大切に考えました。昨年度との変更点は、当日の日課を工夫して、より多くの学園職員が授業を共同参観できるように配慮したことと、事前に「模擬授業」を取り入れることで、学園職員が授業づくりの段階からかかわり、課題を共有することができるようにしたことです。

６　月の学園授業公開の前には、中学校の研究部が企画し、小学校の先生方も参加して「ぬのをつないで（小３図工）」の模擬授業を実施してみました。

子どもたちが日頃遊んでいる遊具を対象として、色の組み合わせや、布の結び方を工夫しながら取り組んでみました。先生役を中学校の美術科講師がつとめ、参加者全員が児童役となり

「模擬授業」で学び合う学園職員

学び合う学園の子どもたち（小3図工）

実施してみました。

しかし、共同参観当日の子どもたちの学びの様子は、私たち大人のそれとは少し違っていました。布を使ってきれいなお城づくりを楽しむ姿、校舎の階段全体を布で覆い、トンネルをつくって楽しむ姿などが見られ、子どもたちが対象に働きかけながら、布を使って「遊びを楽しむ姿」が印象的でした。学園職員の感想には「中学教師の私が児童の学びを体験することは新鮮だったし、体験したことで、子どもの考え方との違いに気づくことが出来た」など、「模擬授業」の有用性を実感したという感想が多く見られました。

さらに 11 月の共同参観授業（中 1 英語）に向けては、6 月の模擬授業（小 3 図工）の反省を踏まえて、模擬授業の実践を授業改善につなげていくためには「模擬授業後の振り返り」が大切であると考え、研究部の提案により「試みる」－「かえりみる」－「深める」－「広げる」を視点とした「模擬授業検討会」を企画して取り組むこととしました。

「模擬授業」で学び合う学園職員

学び合う学園の子どもたち（中1英語）

模擬授業の実践は「子どもの視点」に立つことの難しさと大切さを改めて感得する機会となりました。私たち学園職員（大人）が小学校 3 年生の学びを体験しただけに、実際の児童の学びと模擬授業での私たち大人の学びからは、「簡単には近づけない身体性の違いのようなもの」を感じることとなりました。

しかし、簡単には近づけないものですが、近づけた先に初めて「学習する子どもの視点に立った保育・授業改善」のあり方が見えてくるのではないかと考えています。本年度より学園の中心講師としてお迎えしている渡辺貴裕先生（東京学芸大学教職大学院准教授）のご指導を仰ぎながら、次年度も実践を重ねていきたいと思います。

学園講師の渡辺貴裕先生

## 2　令和 4 年度、10 年目の野沢温泉学園へ

本年度は、コロナ禍の活動としてできることを模索する中で、「日々の保育と教科学習の充実」を柱とした学園運営となりました。新しい試みとして職員による「模擬授業」を取り入れることで、学園の職員がこども園、小学校、中学校といった校種を超えてつながる姿が見られました。

これからも、子どもも職員も「ともに学び合う野沢温泉学園」を目指して、本年度の成果を令和 4 年度、10 年目の学園運営につなげていきたいと思います。

本年度も学園の取り組みを温かく見守ってくださった保護者の皆様、野沢温泉村教育委員会をはじめ関係の皆様に、心より感謝を申し上げます。 ありがとうございました。

文責：令和 3 年度学園長　嶋田　勝彦